



年頭のごあいさつ

東山道発見の夢

みやぎ街道交流会の皆様、新年明けましておめでとうございます。

今年は、平成 19 年に松島の寒風沢で産声を上げたみやぎ街道交流会が、創立 10 周年を迎えます。高倉淳初代会長を引き継いで早くも 6 年目になりますが、この節目の年にあたり、設立の精神をもう一度かみしめ、事業を点検し、新たな 10 年の発展に繋げたいものです。会員の皆様からも積極的な提言を出していただきたく、よろしくお願い致します。

私は数年前から、岩沼市史編纂の一環として岩沼市域でさまざまな考古学的調査を行っております。その成果の一つは一昨年定期総会で、沿岸部の高大瀬遺跡において 5 年前の津波堆積層の下から平安時代の貞観地震、江戸時代の慶長地震に由来するとみられる津波堆積層を発見したことを紹介させていただきましたが、今年は古代東山道に関して新たな発見ができるのではないかと期待に夢を膨らませております。

ご承知のように岩沼市は、東を太平洋、南を阿武隈川で画され、西からは奥羽山系の千貫山が東に大きく張り出す地形をしているため、鉄道や国道などの幹線交通が狭い場所に集中しています。古代の東山道や延喜式にみられる玉前駅(たまさきうまや)なども同様で、千貫山と阿武隈川に挟まれたきわめて限定された範囲にあったと推定され、古代交通路の研究にとっては格好の調査地といえます。この地区には現在も「玉崎」という地名が残っており、玉前駅に関わる遺構が発見される可能性も高いと考えられることから、いよいよ今月下旬にこの地区はじめての発掘調査に着手することにしました。借地などの関係で今回は小範囲の発掘しかできませんが、東山道や駅の遺構を解明する手がかりがつかめれば、古代史上たいへん重要な発見となります。

平成 22 年に加美町で行われたみやぎ街道交流会第 2 回交流大会で、私は陸奥国における東山道研究について報告し、調査の必要性とその方法を提案させていただきましたが、現状はその時と殆ど変わっておりません。幸運にも今回の私の夢が現実となり、街道をめぐる明るい情報を提供することでみやぎ街道交流会の 10 周年に華を添えることができたならば、高倉前会長にも喜んでいただけるのではないかと考えております。

申年の年頭に、大きめの夢を披露させていただき、あいさつといたします。

平成 28 年正月

会長 白鳥良一

みやぎ街道交流会

題字：高倉 淳初代会長 揮毫

みやぎ
街道
交流会
ニュース
第 32 号

2016. 1. 22 発行

(写真：京野副会長撮影を補正)



熊野神社は、和歌山県熊野地方にある、熊野三山(熊野本宮大社・熊野速玉大社・熊野那智大社)を総本宮とする神社です。

熊野信仰は、熊野の御師(おし)が日本各地を行脚して広めるとともに、熊野権現が日本全国に勧請され、日本各地に3千社以上あると言われています。東北各地にも644社と多くあり、東北地方の歴史・文化に大きな影響を与えたものと思います。

当街道交流会会員の笠原さんに、熊野信仰の発生と発展、東北地方への普及の基盤と出羽三山信仰への影響、そして東北地方の主な熊野神社など、これまでの調査研究の成果について解説して頂きましたので要旨を報告します。

〔笠原さんの熊野詣〕

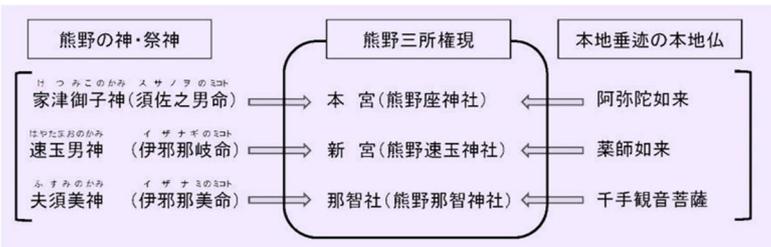
「紀伊山地の霊場と参詣道」として2004年7月に世界遺産登録された年の8月、還暦の記念に“熊野古道・中辺路”(新宮市から田辺市の滝尻王子社まで)の約100kmを、キャンプ生活を続けながら歩いたそうです。

(1)熊野信仰の成り立ち

- ▶ 神道は、縄文人の精霊崇拜、弥生人の祖霊信仰を基にして生まれたと考えられているが、古代の人々は、熊野の地は“亡くなった先祖の霊がこもるところ”と考えていたようだ。(伊邪那美(イザナミ)神の亡骸が熊野の有馬村に葬られた。)
- ▶ 大和朝廷の人々も、南方に広がる吉野から熊野にかけての山岳地帯を神聖な他界と考えていた。特に熊野の海岸は、あの世(常世国)に連なる地とされていた。
- ▶ この様な古代から連続と続く想いが、熊野の地が“神の座すところ”という熊野信仰の起こりの基となったのだろう。

(2)熊野の地における信仰の展開

- ▶ 6世紀半に仏教伝来し、7世紀初頭には朝廷による仏教興隆策が取られ法隆寺等の大寺院が造られるが、当時の人々の大部分は仏教学を学ばずに仏に現世利益(げんせいりやく)を求めた。またこの頃、寺院や仏像・仏画を真似て、神社や神像・神の肖像画がつくられる様になった。
- ▶ その後、役小角が吉野金峰山に密教修験道場を開いた。永興禅師(興福寺僧)が仏教政治で乱れていた奈良を避け熊野で修行をして南菩薩と称された。また、弘法大師空海が高野山に金剛峰寺を開いたなどを経る。そして、900年代には、吉野の金峰・大峰山より熊野に通じる行場が開かれ、“熊野”が改めて世に知られる様になる。
- ▶ この頃、既に熊野本宮大社は名神大社、熊野速玉神社は大社として、朝廷の篤い崇敬をうけており、中央にその神威が輝き伝わっていた。
- ▶ 907年には、宇多法皇が上皇として初めて熊野本宮・新宮へ御幸するなど、朝廷の支配層の意向によって、神道が次第に仏教や儒教の知識を取り入れながら、一定の形式にまとめられていった。この営みは、ひとまず“神仏習合”の形をとって完成し、熊野信仰にも具現化された。



〔本地垂迹(ほんじすいじゃく)説〕
 神仏習合を進めたのが天台宗と真言宗の密教勢力で、その主張は、「仏は幾度も生まれ変わって人々を助けるものであるから、日本の神は仏の生まれかわった姿の一つである」との思想で、[本地である仏・菩薩が衆生を救済するために、我が国の神祇となって現れるとする神仏同体説]と要約される。

- ▶ この様な中、天台座主慈恵大師良源上人(912~985年)が布教のため東北を歩き、各地の寺に熊野神を勧請する。
- ▶ 当時、「1052年に末法の世に入り仏教が廃れ、世の中が荒廃し暗黒の時代が到来する」と信じられていた。この世で幸福が望めないなら、せめてあの世では極楽への祈りを込めて平安貴族たちは争うように阿弥陀仏像を造立した。
- ▶ このような時代背景から上皇たちの熊野詣や高野詣がピークに達した(白河上皇 9回、鳥羽上皇 21回(白河上皇と3回)、後白河上皇 33回)。この頃(1080年代)、「熊野三山」という呼称が一般的になって唱えられる。

(3)修験道と熊野神社

- ▶ 平安時代末期(12世紀)に、熊野・吉野などにおいて山岳修行が盛んになり、そこから熊野三社を中心に、“修験道”という仏教と神道、それに様々な民間信仰を融合させた新たな信仰がつけられた。
- ▶ この修験道を身につけた修験者は、様々な呪術を用いるとされた。そのために、皇室も貴族も彼らの呪力に頼ろうと、しきりに熊野詣を行うようになった。そして、修験者たちは、皇室との結びつきを強めつつ、全国各地をめぐる山伏の姿が広く見られる様になり、農村で病氣治しの呪術や屋敷神の祭りをを行った。
- ▶ 朝廷と各地の熊野神社との間に、親密な関係が保たれたため、熊野三社の修験者たちは、朝廷の意向を受けて、各地の熊野神社を巡り、皇室と天皇寄りの地方武士との連絡にも活躍するようになって行った。

〔修験者の主な役割〕

- 神社の別当
- 祈禱・薬草による医療行為
- 参詣案内、講組織の指導（御師）
- 子弟の教育（寺子屋）
- 祭りや年中行事の指導・助言
- 講社まわり、檀家への御札配り

〔4〕熊野比丘尼たちによる布教活動

- ▶ 平安時代末期に近づいてくると、全国各地から貴族や武士ばかりではなく、農民や商人などの一般庶民の熊野詣が益々増大していった。（蟻の熊野詣）
- ▶ 熊野の神が人々を引きつけた理由には、浄・不浄又貴賤を問わない、当時女人禁制がほとんどだが女性を受け入れた、阿弥陀・薬師・観音の大きな御加護の点があるが、これとは別に熊野比丘尼（びくに）や熊野念仏聖らの活躍によることも大きな要素である。
- ▶ 熊野比丘尼は、新宮の御神体である神倉山麓にある妙心寺を本拠地に活動し、「熊野那智参詣曼荼羅」や「熊野観心十界絵図」などを用いた説教（絵解き）で、熊野三山への勧進・布教や参詣を勧誘した。また「牛王神璽札（俗に牛王宝印という）」の配布も行った。
- ▶ しかし、江戸期に入ると、幕府は修験者が信仰を通じて各地の武士と通じるのを嫌い、山伏に定住を進める様になった。そのため都市や農村に定住して「里修験」とよばれる者が多くなった。また、国内の交通が盛んになったため、山伏がもたらす情報が前ほど貴重ではなくなり、熊野三社の地方に対する影響力ははだいに後退していった。



（出典：南紀勝浦温泉旅館組合プロ）

〔5〕出羽三山信仰

- ▶ 出羽三山信仰の起こりを考える時、熊野信仰の時と同様に東北の先祖が自然に対して抱いた畏敬の念のことを考える必要があるが、熊野と東北の自然環境に違いがある。
- ▶ 紀伊国は、山々に埋もれた谷あいの狭い平地と海岸に面したやや広い平地に人々が生活をしている。これに対して、東北は、奥羽山脈という長大で大きな脊梁山脈はあるが、人間が居住しているかなりの広さを持つ平野が数多くある点である。
- ▶ 古代の東北人は、里から遠くに見える秀麗な高山に対して、そこは神の住みたまう霊峰として崇めたに違いないと思う。冬には真白に雪でおおわれた高山は美しく気高く感じる。
- ▶ 死者の魂は、先ず里に近い山に昇り、次に遠くの霊峰に昇って行くと考えられる羽山信仰（山岳崇拜）は東北に多く、各地にある羽山、葉山、端山がそれである。そして、信仰対象になっている高山は、岩木山、岩手山、早池峰山、蔵王山などなど数多い。
- ▶ 出羽地方においての対象は、羽黒山であり、鳥海山であり、月山であった。また東方の村山平野からは、一番手前の葉山、月山、羽黒山だった。これが出羽三山信仰の始まりであると考えられる。
- ▶ そして、東北地方にもかなり浸透していた熊野信仰の影響を強く受けて、出羽三山にも本地仏が置かれるようになったと思われる。
- ▶ 出羽三山の本地仏は、熊野三山の千手観音が聖観音に変わっている。これは第三代天台座主円仁（794～864）の影響により、円仁ゆかりの延暦寺横川根本中堂の本尊仏である聖観音菩薩を積極的に取り入れたと考えられている。



庄内から見る残雪の月山

（出典：鶴岡市観光連盟 HP）

出羽三所権現・本地仏

- 月山 ——— 阿弥陀如来
- 鳥海山又は葉山 ——— 薬師如来
- 羽黒山 ——— 聖観音菩薩

〔出羽三山〕

- ☞ 現在、出羽三山は月山、羽黒山、湯殿山であるが、かつて湯殿山は「出羽三山総奥院」とされ、鳥海山や月山の東方にある葉山が三山に含まれていた。
- ☞ 天正年間（1573～1593）、葉山が、別当寺であった慈恩寺との関係を絶ったことで葉山信仰が衰退し、これ以降湯殿山が出羽三山の 1 つとして数えられるようになったと言われている。



(6) 東北6県における主な熊野神社

▶東北各県の熊野神社の神社数は、笠原さんの調べによると下表とおりで、その計は 644 神社と全国が 3,000 程度に対しては多いものと思われる。そのうち、南3県、特に山形・福島が多い。

青森県	岩手県	秋田県	宮城県	山形県	福島県	東北計
55	54	59	76	125	275	644

▶主な熊野神社は、次のとおりである。



No	所在地	神社名	縁起・由来
①	南陽市 宮内	熊野大社	大同元年(806)の創建。もともとは仏寺であったが、貞観6年(864)比叡山座主慈覚大師円仁が、東北巡礼のおり、当寺に参詣し、堂宇の大破を嘆き、勅命を受けて復興する。大師自ら、阿弥陀・薬師・観音の三仏と大黒天を刻んだと伝わる。
②	寒河江市 平塩	熊野神社	養老5年(721)紀州熊野三社より勧請。行基の開基。江戸時代149石9斗の朱印地(免・租役)。3殿16坊の隆盛を極めた。平安時代後期の作と推定される木造十王像や鎌倉期の木造吉祥天立像などがあり、由緒は古い。隣地に別当寺平塩寺(真言宗)があり、神仏習合の特徴が見られる。

No	所在地	神社名	縁起・由来
③	山形市 六日町	熊野神社	初代山形城主斯波兼頼が延文3年(1358)行蔵院道覚をして、紀州熊野大権現を勧請し、城内に祀ったのを草創としている。元和7年(1621)、現在地に移して山形城鬼門の鎮護とした。
④	飽海郡遊佐町 杉沢	熊野神社	鳥海山登山道杉沢口の1合目にあたる西麓の地にあり、承和元年(834)出雲国から分霊を勧請したと伝わる。山伏によって伝承されてきた番楽の修験の舞は、杉沢比山として有名。
⑦	弘前市田町	熊野奥照神社	白雉4年(658)阿倍比羅夫が出羽国の蝦夷を討つ。副使物部安麻呂が津軽に来て、熊野三所権現を祀る。延暦7年(788)比羅夫の子孫、比羅賀洲王が奥尾崎(小泊村付近)より扇野庄(弘前)に遷したのが鎮座の初め。
⑧	喜多方市 慶徳町新宮	熊野神社	後三年合戦(1083~1087)の際、源義家が勧請したと伝わる。国の重要文化財の熊野神社長床(拝殿)や1341年銘の銅鉢など多くの文化財がある。
⑪	名取熊野三社		
(1)	名取市高館 熊野堂岩口上	熊野新宮社	拝殿の北に奥の院とよばれる本殿3棟がある。証誠殿を中心に、十二社権現社と那智飛龍権現社。旧別当寺である新宮寺には、平安時代末期頃の造像とみられる獅子騎乗文殊菩薩座像が文殊堂本尊として祀られている。
(2)	" 吉田館山	熊野那智神社	明治31年社殿建て替えの際、地中から数多くの御正躰と銅鏡が発見され、その内155点が国・県の重要美術工芸品に指定されている。
(3)	" 熊野堂五反田	熊野本宮社	以前は小館といわれる山の上(大館城跡)にあったが、万治元年(1658)に現在地に遷された。
⑫	名取市高館川 上字北台	今熊野神社	慶長5年(1600)前田村小清水屋敷の守屋氏が伊達政宗に水田四十数町歩を寄進。恩賞に、信仰している観音を赤坂山に祀ってほしい旨望んだところ、赤坂大明神に合祀され、今熊野神社と改称した。
⑬	大崎市古川字 宮沢	熊野神社	文治元年(1183)藤原秀衡の勧請。御神体は平安末期作と推定される御正躰で、直径45.5cmの円盤で、銅造の阿弥陀如来像を鏡面に留めて一体化している。
⑭	花巻市上根子 字熊野	熊野神社	大同元年(806)の建立。坂上田村麻呂が東征の折、胆沢城と志波城を築いたが、その中継地として設けた盤城駅がこの地で、熊野大権現を勧請した。境内に熊堂古墳群7基が確認される。

※⑤湯沢市横堀、⑥湯沢市小野、⑨南会津町田島、⑩いわき市錦町(いずれも熊野神社)の縁起は、配布資料に記載はない。

(6) さいごに

▶熊野神社の成り立ちや全国への布教活動や出羽三山信仰について知ることが出来ました。講師の笠原さんに感謝致します。講演後の意見交換では、東北地方に予想以上に鎮座する理由について、大和朝廷の東北征服策の宗教利用戦略の臭いがするが、更に研究が必要といったところです。皆さんのご意見も賜りたいと思います。(文責:事務局)

《編集後記》

▶明けましておめでとうございます。今新年号は、会長に年頭のご挨拶をお願い致しました。古代の官道である“東山道”が発掘されるといことは、東北地方の古代研究に大変意義あるものと期待するところです。

▶2頁からは勉強会の報告要旨です。熊野神社は、皆様のふるさともあるなじみ深い神社だと思います。今回は、紙面の都合上、大分端折った内容となりましたので、詳細は当日の配付資料I・II(HPにもアップ)をご覧くださいと思います。(ニュース編集部 やま)